

資質・能力ベースの教材分析  
教材との関わり方を問い直す

今年度の会員研究会では提案方法を大きく変えました。研究テーマは昨年度のものを継承していますが、研究の質を高めていくために「教材分析」「授業分析」「発信方法」「協議方法」を見直し、貴重な実践から多くの成果を得ようとしています。中でも、研究テーマとの関わりが強い「教材分析」については、どのような資質・能力を身に付けるかという視点からこれまでの内容ベースでの分析から、資質・能力ベースでの分析に見直す試みがなされています。今月はこれからの授業づくりにおいて、どのような「教材分析」が求められているのかを考えてみたいと思います。

「教材分析」というと、一般的に「かけ算の意味」「基本図形の性質」「割合の考え」といったことを確認していくこととイメージする先生方が多いと思います。これは内容ベースでの「教材分析」と言われるものです。算数・数学の教科固有の内容を丁寧に調べ上げて、それをもとに指導の系統を整理したり教材を組織したりして授業をデザインしてきた方が多いはずで、このような「教材分析」そのものは算数・数学を知る上で欠かすことができないもので、指導において決して不要なものではありません。しかし、今回の改訂で話題になっている三つの柱からなる育成すべき資質・能力の視点から考えると、そのような「教材分析」では不十分なことに気が付くのではないかと思います。

「かけ算の意味」を学ぶ過程においてどのような数学的な見方・考え方を身に付けるのが大切であり、例えば、計算の指導の過程で必ず通過する「(かけ算の)意味を拡張する」といった視点から「教材分析」を行うことで、そこで身に付ける「統合・発展の考え」「形式の統一」などの算数・数学ならではの思考・判断・表現力や「合理的かつ効率的に処理態度」などのこれからの学びに向かう力の獲得を目指す数学的活動をいかに組織するかといった授業づくりのポイントが浮き上がってくると言えます。

同様に、「図形の性質を課題解決に活かす」「割合の考えで事象をとらえる」といった視点からの教材をとらえていくことによって、何を学ぶのかという指導内容からの分析を超えて、どのようなことができるようになったのかという資質・能力からの分析を可能にしていくことになるはずで、図形の性質を形式的に理解していることで終わらずに、その性質を使うことでどのような思考・判断を行い、どのような表現に関心をもつようになるのか、さらに性質を課題解決に活かすことで性質の意味的理解を深めていくといった分析が大切になります。また、割合の考えについても、様々な事象で活用されていることを踏まえ、それを課題解決に活かすために算数の学びでどのように扱うのかといった分析が求められるのだと思います。

資質・能力ベースから教科を見直す過程の入り口において避けて通ることができない「教材分析」のスタンスと変えることは、教材と私たちのこれまでの関わりを見つめ直し、子どもに身に付けたい力から教材の果たす役割をとらえるといった方向に転換していくことを意味していると言えるでしょう。

(2016/07/06)